

社会保険の負担の帰着

まず、労働者は社会保険料を負担する場合に、その受益を考慮しない場合を考える(税の帰着と同じ議論になる)。

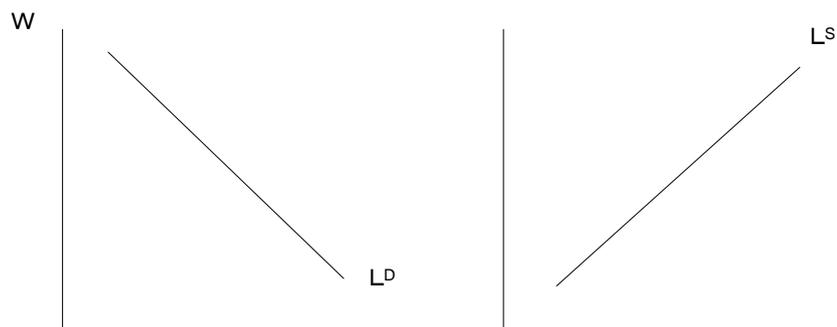
保険料を雇主が負担する場合と労働者が負担する場合を比較する。

保険料を雇主が負担するか、労働者が負担するかによって、市場均衡で決まる賃金と雇用に違いは生じない。

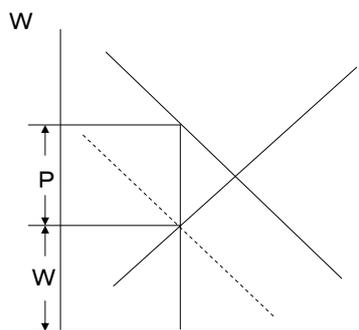
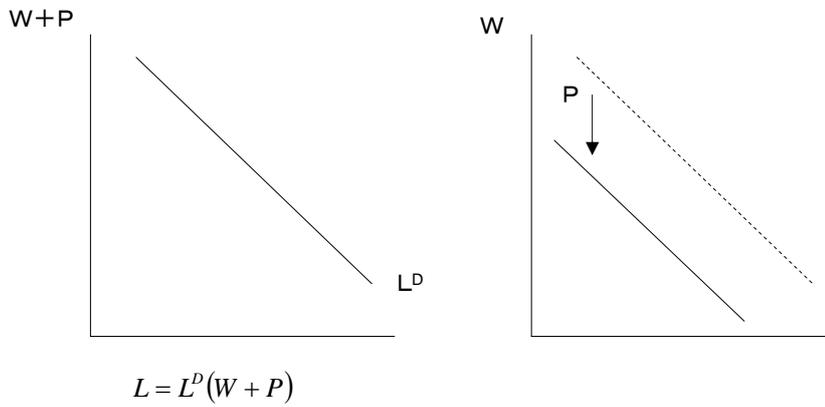
社会保障が存在しない場合

労働需要曲線 $L = L^D(W)$

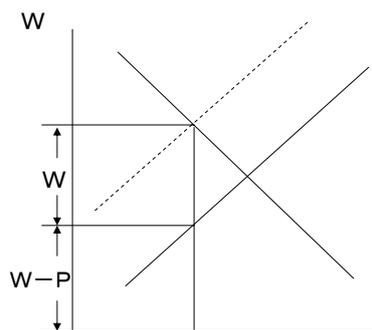
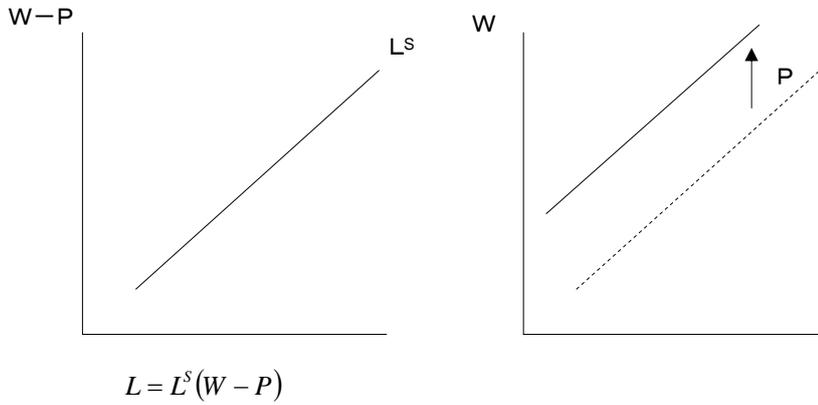
労働供給曲線 $L = L^S(W)$



雇主が社会保険料Pを支払うと



労働者が社会保険料 P を支払うと



社会保険がない場合と社会保険が導入された場合を比較する。

保険料を実質的に誰が負担するかは労働需要と労働供給の賃金弾力性に依存する。

社会保険料が労働市場を攪乱する厚生損失の大きさも、労働需要と労働供給の賃金弾力性に依存する。

つぎに、社会保険の便益が保険料相当であると、労働者が認識している場合を考える。

社会保険がない場合と社会保険が導入された場合を比較する。

賃金と雇用に変化はない。

保険料を雇主が負担する場合と労働者が負担する場合を比較する。

賃金と雇用に変化はない。